



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

会社説明会および 2018年11月期 第2四半期決算説明会資料

2018年7月11日【大阪】
2018年7月30日【東京】



証券コード: 4187

URL <https://www.ooc.co.jp/>

目次



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

2

1. 大阪有機化学工業株式会社の事業概要
2. 2018年11月期 第2四半期 決算概要
3. 2018年11月期 業績予想
4. トピックス
5. 資本政策
6. CSR活動
7. 長期経営計画 Next Stage 10

<注意事項>

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。



1. 大阪有機化学工業株式会社の事業概要

沿革



1946 (昭和21年) 当社設立「カナダバルサム」・「ツエーデル油」の製造販売開始

1949 (昭和24年) 「酢酸エステル」製造販売開始

1953 (昭和28年) 日本で初めて「**アクリル酸**」の製造販売開始

1961 (昭和36年) 大阪工場(現 大阪事業所)開設

1969 (昭和44年) 神港有機化学工業株式会社(連結子会社)を設立

1970 (昭和45年) 「**特殊アクリル酸エステル**」の製造販売開始

1981 (昭和56年) 金沢工場開設

1983 (昭和58年) 「**化粧品(頭髮用)材料及び電子材料**」の製造販売開始

1986 (昭和61年) 「**医薬中間原料**」の製造販売開始

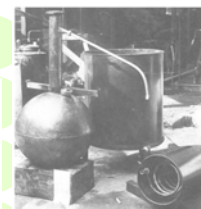
1987 (昭和62年) 大阪証券取引所市場第二部に上場

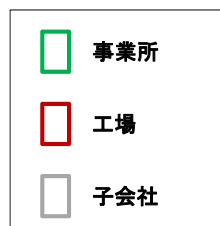
2000 (平成12年) 酒田工場開設

2005 (平成17年) 東京証券取引所市場第二部に上場

2011 (平成23年) 東京証券取引所市場第一部に指定

2014 (平成26年) 光碩(上海)化工貿易有限公司(連結子会社)を設立





光碩(上海)化工貿易有限公司



金沢工場



酒田工場

神港有機化学工業株式会社

本社

大阪事業所



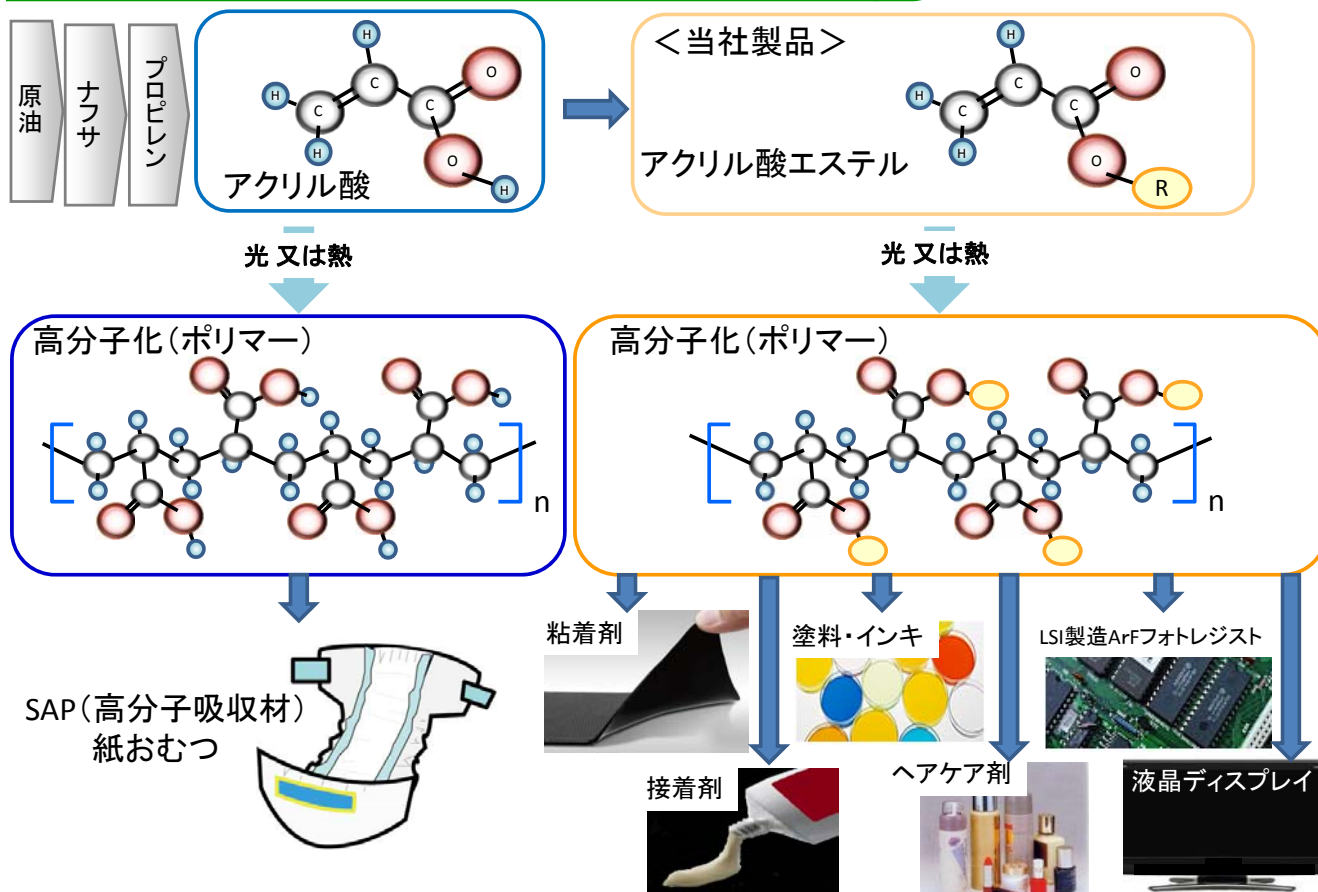
八千代事業所

東京オフィス

<研究開発拠点について>

研究開発拠点	ロケーション	人員	技術領域
大阪研究所	大阪事業所内	約 25名	液晶ディスプレイ材料、タッチパネル材料 光学フィルム材料、次世代表示材料
先進技術研究所	大阪事業所内	約 10名	センサデバイス周辺材料、 エネルギー関連材料
金沢研究所	金沢工場内	約 55名	新規モノマー、新規オリゴマー、化粧品原料、生体適合材料、 機能性コーティング、半導体用特殊モノマー、半導体周辺材料
製造技術部	金沢工場内	約 6名	コスト削減、環境負荷低減

身近な製品に利用されるアクリル酸エステル



化成品事業



自動車塗料
一般塗料



ディスプレイフィルム



インキ・粘接着剤

電子材料事業

カラーフィルター

液晶スペーサーレジスト



半導体

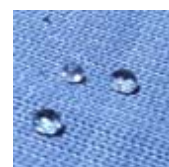


タッチパネル材料

機能化学品事業



化粧品原料



機能性材料

当社のニッチ・高シェア製品

製品群	シェア	用途
特殊アクリル酸エステル (IBXA、4-HBA等)	高シェア	 自動車用塗料  各種塗料  粘接着材
高精細PS剤	高シェア	 液晶TV  スマートフォン  タブレット
ArFフォトリソ用 アクリル酸エステル	トップシェア	 LSI



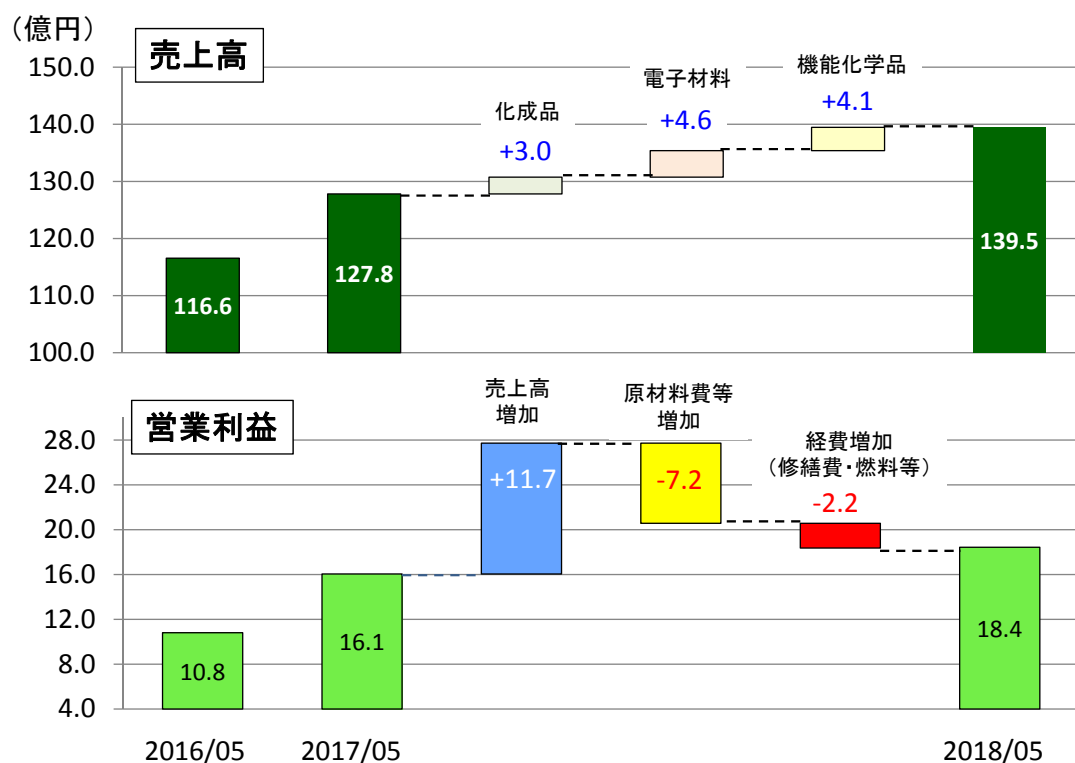
2. 2018年11月期 第2四半期 決算概要

2018年11月期 第2四半期 決算概要



- ・ 前年度比
各セグメント売上増、特に電子材料・機能化学品が好調に推移した。
国内ナフサの上昇による原燃料費や修繕費・手数料等の経費増により、
化成品では営業利益は減少するも、電子材料・機能化学品の売上増が牽引し、
営業利益は15%増となった。
- ・ 予想比(年初)
売上高では、化成品がほぼ予想通り、電子材料・機能化学品が予想を上回り、
トータルで3%増となった。

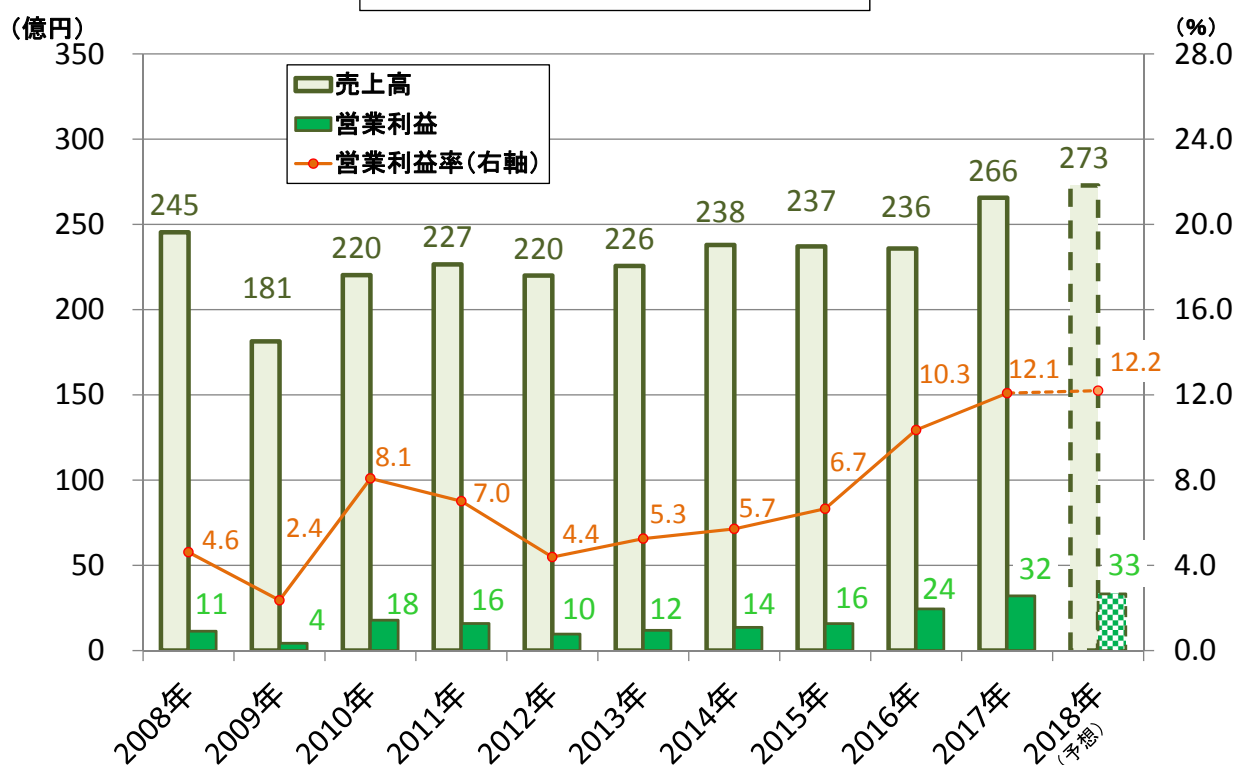
	2017/05 実績	2018/05 予想	2018/05 実績	増 減			
				前年度比		予想比	
				金額	%	金額	%
売上高(百万円)	12,780	13,490	13,948	1,168	109	458	103
営業利益(百万円)	1,605	1,727	1,843	238	115	116	107
経常利益(百万円)	1,645	1,804	1,968	323	120	164	109
親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,125	1,251	1,310	185	116	59	105
国内ナフサ(円/KL)	40, 000	38, 000	—	—	—	—	—
為替(円/\$)	112	110	—	—	—	—	—



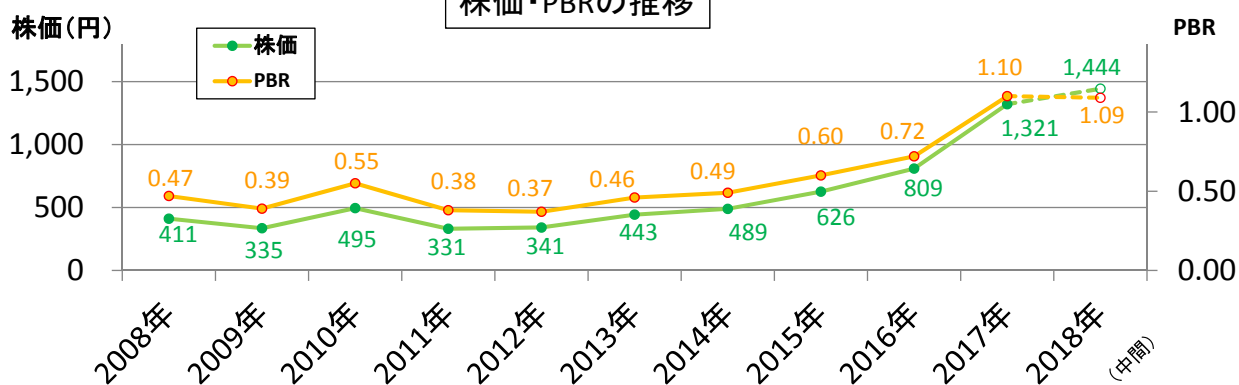
(金額単位: 百万円)

	2017/05		2018/05		増減	前年比
		(構成比率)		(構成比率)		
売上高	12,780		13,948		+1,168	109 %
化成品事業	5,434	43 %	5,729	41 %	+295	105 %
電子材料事業	4,382	34 %	4,845	35 %	+463	111 %
機能化学品事業	2,963	23 %	3,372	24 %	+409	114 %
営業利益	1,605		1,843		+238	115 %
化成品事業	443	28 %	318	18 %	▲125	72 %
電子材料事業	825	51 %	1,072	58 %	+247	130 %
機能化学品事業	333	21 %	446	24 %	+113	134 %

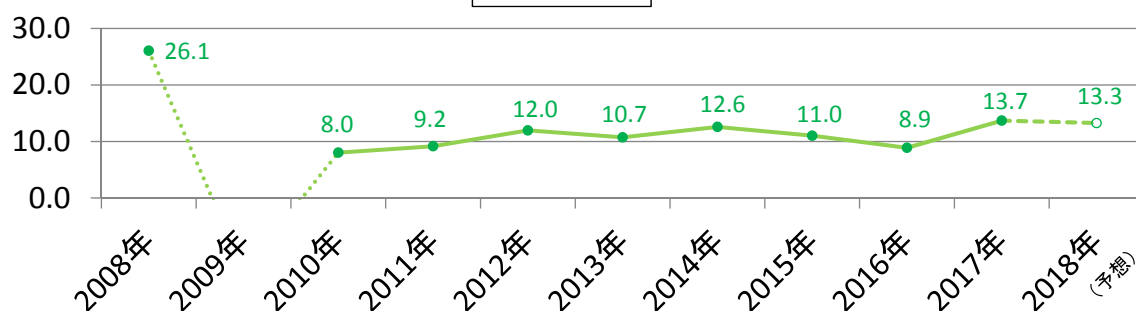
売上高・営業利益・営業利益率



株価・PBRの推移



PERの推移



*2009年は赤字



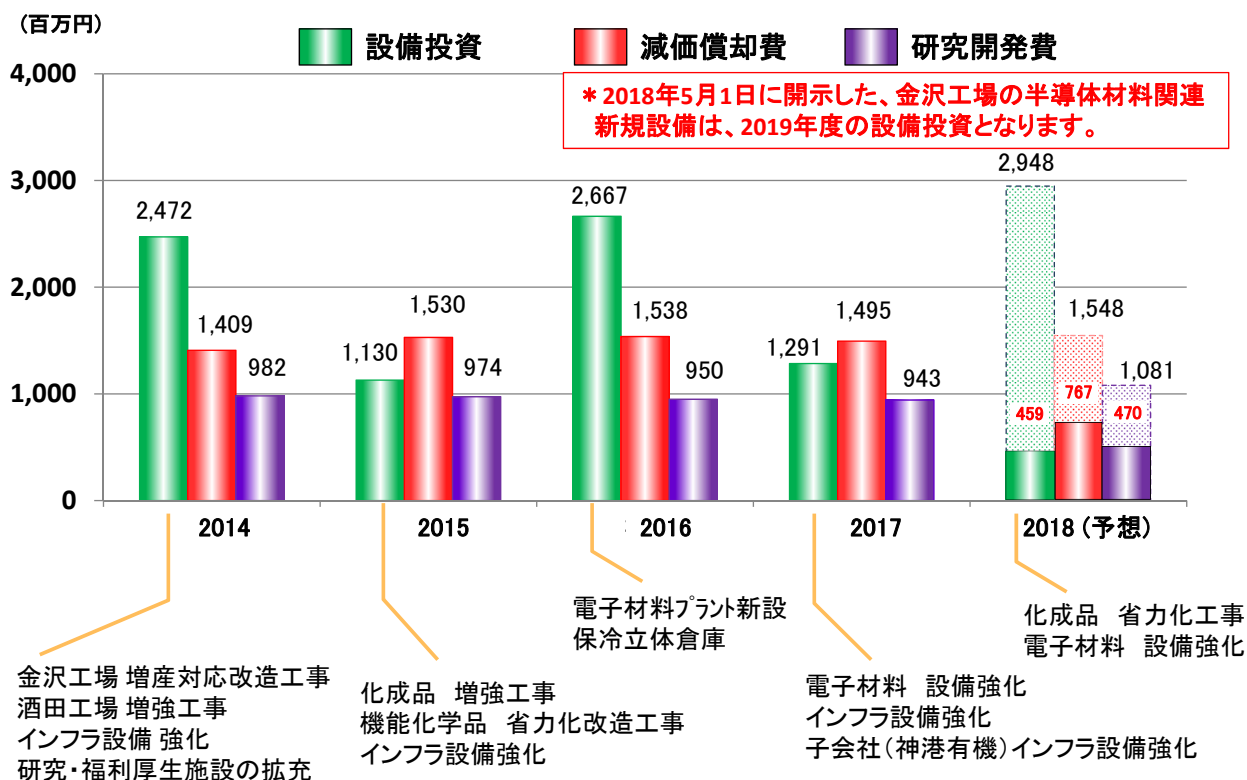
3. 2018年11月期 業績予想

2018年11月期 業績と経営指標予想

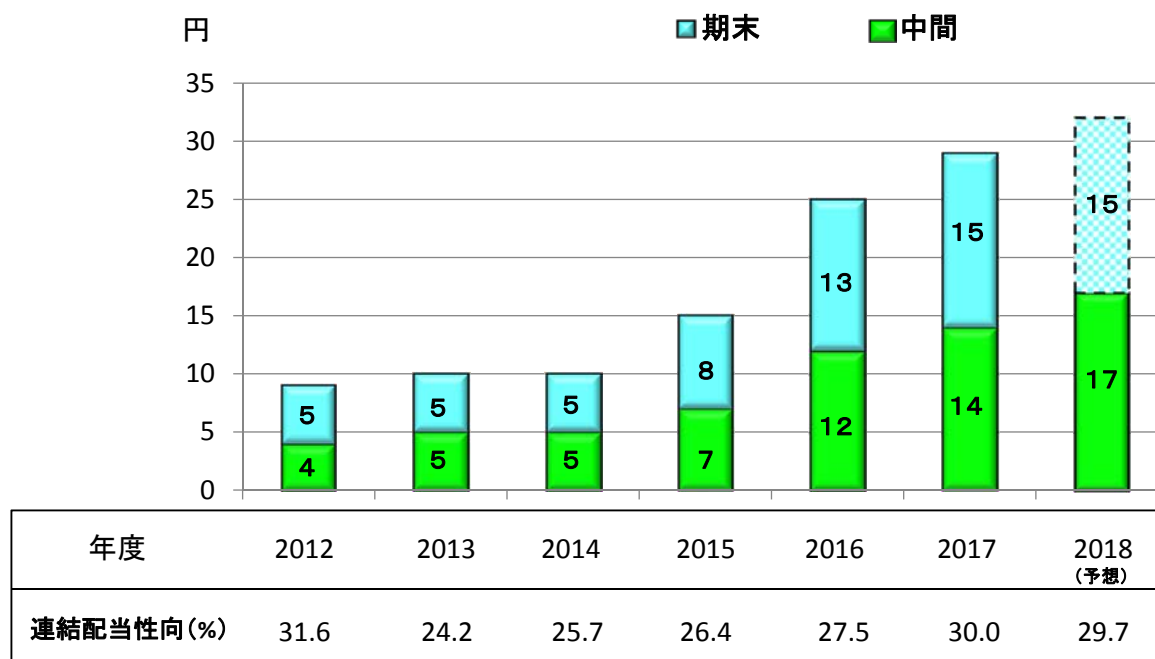


増収・増益を予想

	2017/11	2018/11	前年増減	前年比
売上高(百万円)	26,562	27,281	719	103%
営業利益(百万円)	3,208	3,327	119	104%
経常利益(百万円)	3,364	3,497	133	104%
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	2,161	2,415	254	112%
純資産(百万円)	29,698	30,819	1,121	104%
売上高営業利益率(%)	12.1	12.2	—	—
ROE(%)	7.7	8.0	—	—
一株当たり純利益(円銭)	96.51	108.87	—	—
自己資本比率(%)	74.7	75.4	—	—
国内ナフサ (円/KL)	40,000	38,000	—	—
為替 (円/\$)	112	110	—	—



増収・増益予想にて 年間3円増配を予想





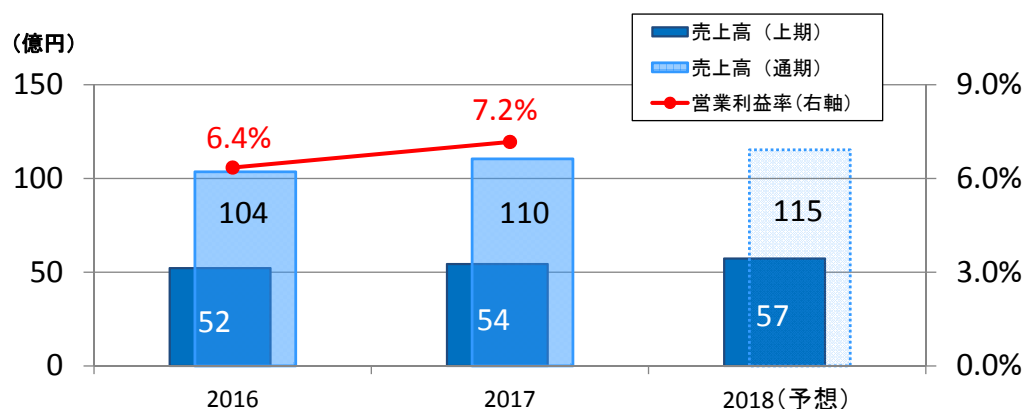
事業方針

安定基盤事業

事業展開

・収益性アップ	製品の選択と集中 優位性のある製品(4-HBA,IBXA等)の拡販
・海外拡販の強化	中国現地法人とアメリカ駐在員との連携による拡販
・高付加価値製品の上市	特殊インク用原料(UVインクジェット等) 光学向け粘着剤用原料の拡販に注力

実績・予想



今後の展開 化成品事業



事業分野

自動車用塗料・粘接着材・特殊インク(UVインクジェット)等

事業環境

- ・国内産業の伸び悩み
- ・市場の中心はアジア、米国

当社の強み

- ・アクリル酸エステルの豊富なラインナップ(化学物質申請対応)
- ・製造技術の蓄積

中期施策

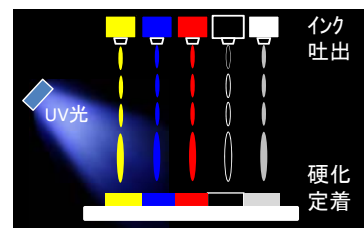
・海外市場への拡販強化	・特殊アクリル酸エステル(4-HBA等)の拡販 ・UVインクジェットインク用材料の拡販
・プロセス改善	・製造コスト低減
・用途の多様化 ・新製品開発	・光学材料向け粘着剤用原料の拡販 ・新規用途開拓とそれに合わせた製品開発強化

事業分野

特殊インク UVインクジェット

事業環境

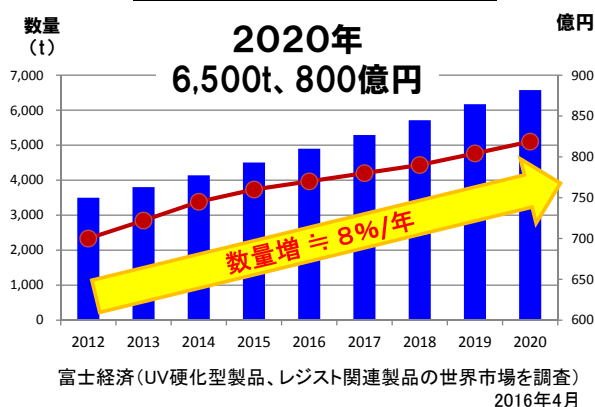
・市場の中心は米国、中国、欧州



市場位置付け

・UVインクジェットインキ原材料としてアクリル酸エステル類の販売
・顧客 国内外のインキメーカー、プリンターメーカー

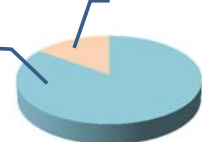
UVインクジェットインクの市場



UVインクジェットインクの代表的な組成

アクリル酸エステル85%

添加剤15%



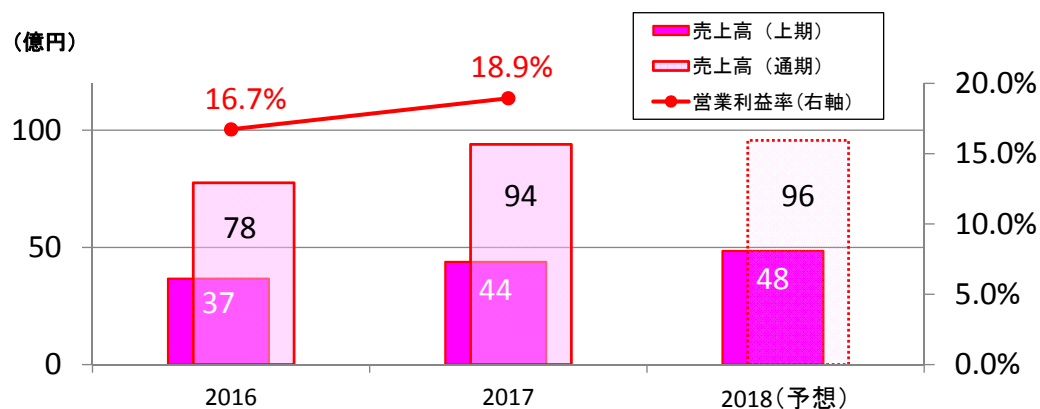
事業方針

先端材料事業

事業展開

・主力製品のシェア拡大	FPD材料およびArFレジスト用原料の拡販
・次世代表示材料の開発	タッチパネル用絶縁膜材料の用途拡大

実績・予想





事業分野

半導体関連

事業環境

- ・ 半導体市場 AI、IoT関連分野の拡大により半導体市場の拡大
- ・ 3D NANDの市場拡大
- ・ ArFからEUVへの移行

当社の強み

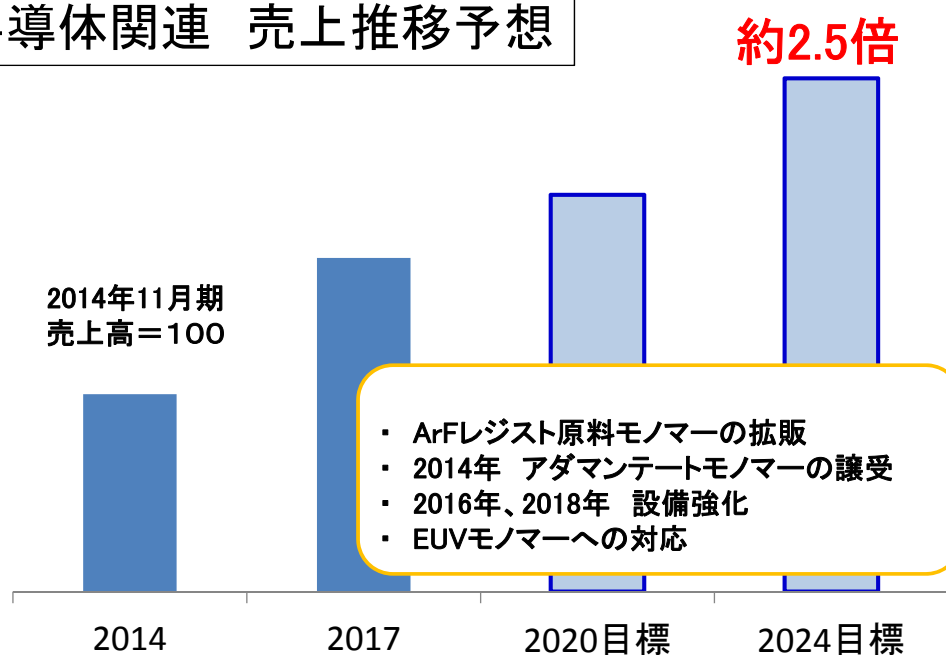
- ・ 光微細加工プロセスのキーマテリアル(特殊アクリル酸エステル類)の開発～生産の一貫対応
- ・ 高度な品質管理体制

中期施策

半導体関連材料の 事業拡大	・ ArF用レジスト原料の特殊アクリル酸エステル類拡販 ・ EUV用レジスト材原材料への対応 ・ LSI関連材料への対応 ・ 設備増強による販売強化
------------------	---



半導体関連 売上推移予想





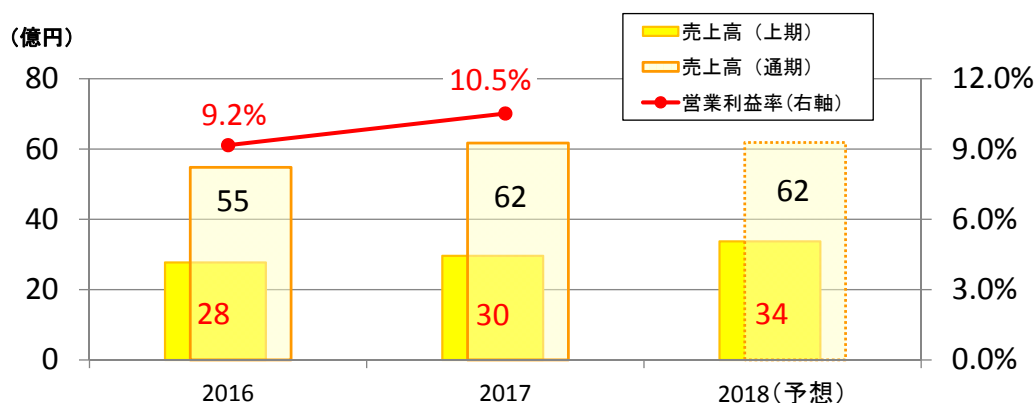
事業方針

第3の事業育成

事業展開

・海外拡販強化	化粧品基剤では高品質化で勝負
・既存製品の合理化と拡販	化粧品基材のプロセス改良 特殊溶剤の拡販(連結子会社:神港有機化学工業株式会社)

実績・予想



今後の展開 機能化学品事業



事業分野

化粧品基材・特殊溶剤・機能性材料

事業環境

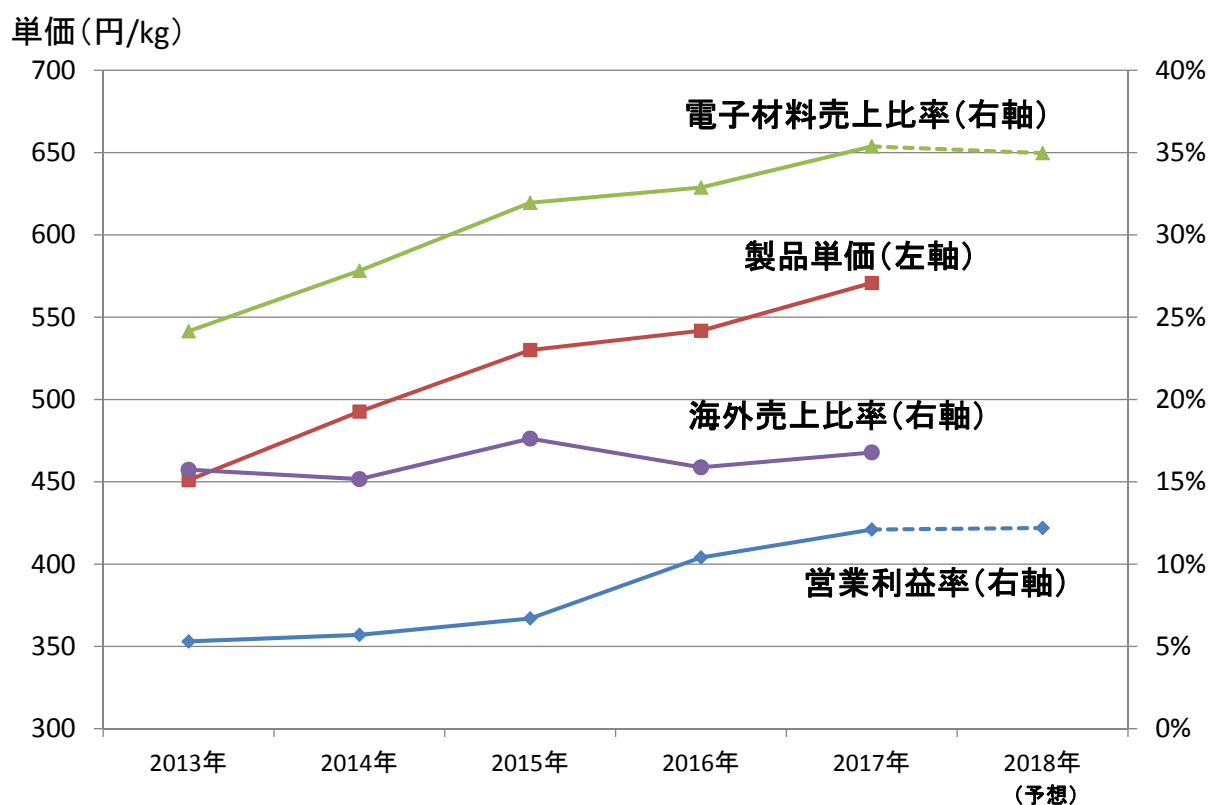
- ・アジア圏の化粧品市場の拡大
- ・特殊溶剤は高機能用途へシフト

当社の強み

- ・機能性アクリルポリマーの設計技術
- ・精密有機合成技術と精製技術

中期施策

・化粧品基材の海外展開	・アジア圏をターゲットにした拡販活動
・神港有機化学の事業改革	・電材向け特殊溶剤の拡販
・新規機能材料の商品開発	・顧客とタイアップした新規機能材料の開発を促進伸縮性導電材料 ・産学共同によるライフサイエンス分野の商品開発生体適合性材料



4. トピックス

* アクリルエラストマ樹脂とフィラー等の混合物からなるコンポジット材料

- ・特徴 : 柔軟性、伸張性、耐熱性が高い。
伸ばした際の抵抗値変化が大きい(歪センサとして有用)
- ・用途 : ストレッチャブル歪センサ、感圧センサ、人工筋肉 等
- ・ターゲット分野: ウェアラブル、センサ、アクチュエータ、ロボティクス分野
- ・現状 : フィルム・樹脂としてサンプルワーク中



イメージ図(伸縮性導電ペースト)



イメージ図(伸縮性導電フィルム)



展示会への出展

ウェアラブル端末の活用と技術の専門展

第4回 ウェアラブルEXPO

2018年1月17日(水)～19日(金)
於: 東京ビックサイト

社会基盤、安全を支える技術・素材展

ケミカルマテリアル JAPAN 2018

2018年5月17日(木)～18日(金)
於: パシフィコ横浜

2018 マイクロエレクトロニクスショー (eX-tech)

2018年6月6日(水)～8日(金)
於: 東京ビックサイト

今後の出展(予定)

2018年12月: 高機能フィルム展
2019年 1月: ウェアラブルEXPO

【ウェアラブルEXPO 弊社の製品・技術セミナー風景】



【ケミカルマテリアル JAPAN 2018 出展風景】





5. 資本政策

資本政策



基本方針

当社は、企業価値の向上を目指し、財務体質の健全性、資本効率及び株主還元の最適なバランスを図ってまいります。

配当政策

配当性向30%を重要な指標のひとつとし、支払いに努めます。

自己株式の取得

経営環境の変化に機動的に対応し、株主価値の向上に資する資本政策等を可能とするため、自己株式の取得を行います。

重要経営指標目標

売上高営業利益率10%以上を目標にします。
自己資本比率70%前後を維持します。

政策保有株式に関する方針

保有基準を定め、保有理由を明確に開示します。

資金調達(増資等)の方針

健全な財務体質の維持、資本効率の向上、株式価値の希薄化等への十分な配慮と調達コスト・スピード等を考慮し、資金調達を行います。

6. CSR活動

CSR活動

持続可能社会の実現・自然環境との調和

化学物質 = 社会に必要な不可欠 = 自然環境との共存発展

技術的な視点

エネルギー・廃棄物の削減	・OYPM活動(全従業員参加の生産保全活動)でエネルギーの効率活用に取り組み ・生産プロセスからの副生油(廃油)を利用するボイラーを開発し運用
環境配慮技術への取り組み	・副反応や廃棄物発生が少ないアクリル酸エステル製造法を工業化
化学物質管理と情報開示	・法令を遵守し管理 ・環境・社会報告書をHPに公開



社会貢献活動

積極的な地域社会活動への参加を実施



クリーンビーチ石川清掃活動参加



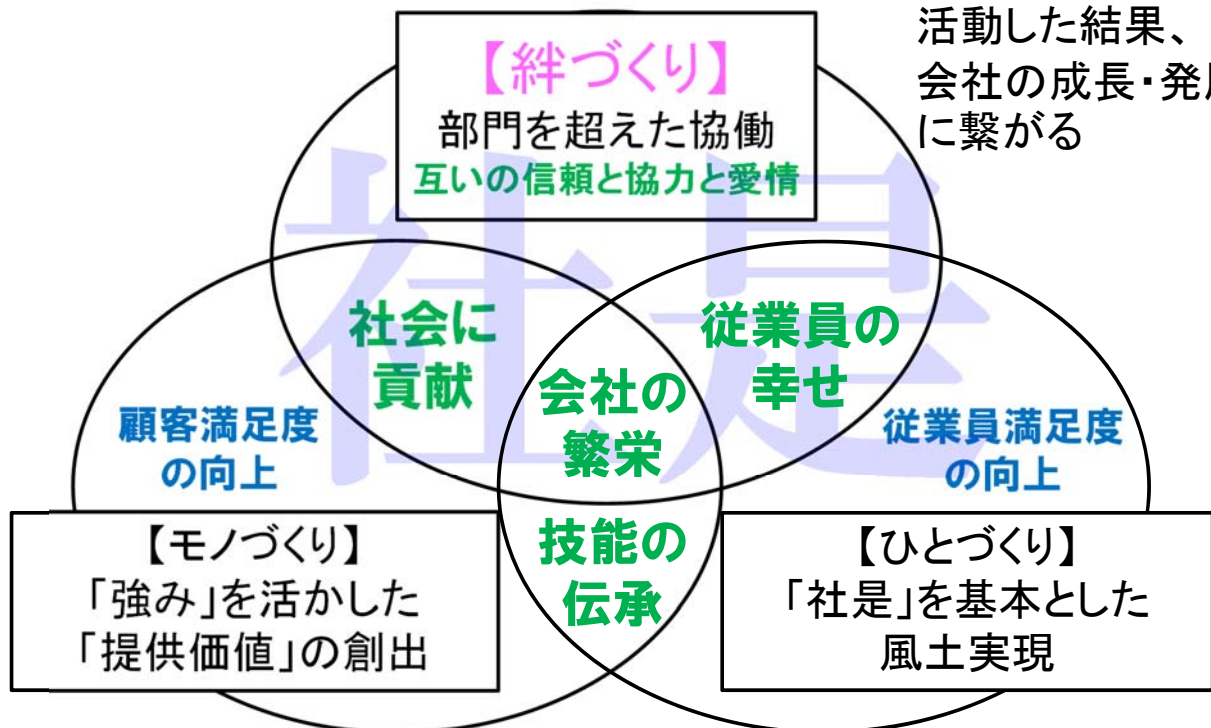
大和川・石川クリーン作戦参加

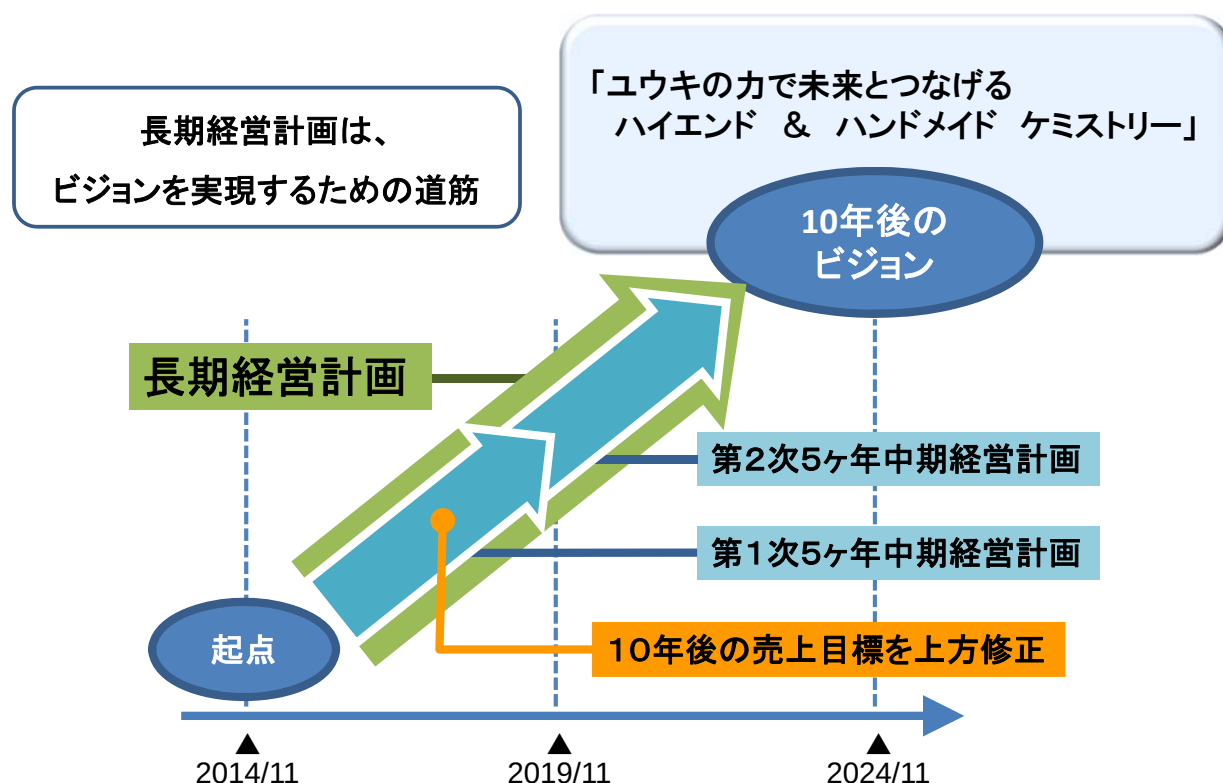


鳥海南工業団地友好会
クリーン作戦参加

7. 長期経営計画 Next Stage 10

社是の展開イメージ



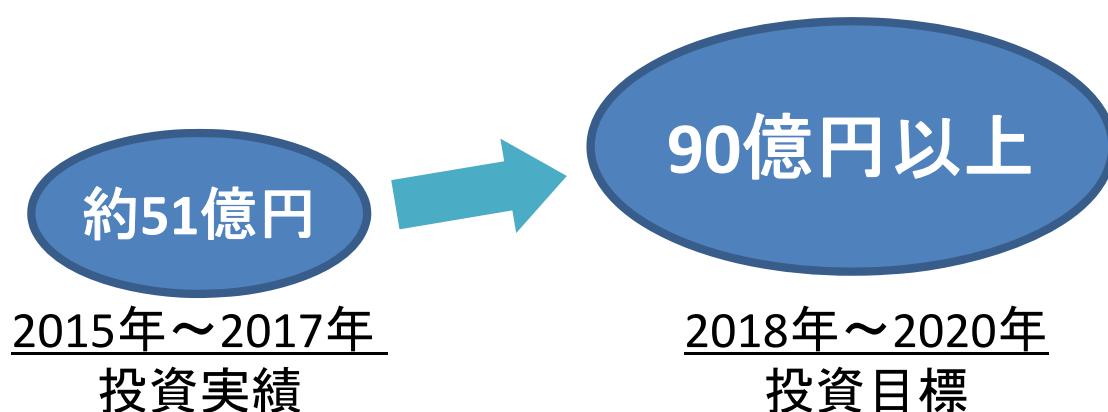


1. 既存事業における3つのNo.1
実現に向けたビジネスモデルの革新
2. 新たな収益の柱となる新規事業の創出
3. グローバル事業の拡大・推進
4. トータルコストの上昇抑制
5. 人材育成・獲得と技能の伝承
6. 効率的な組織基盤の整備

海外を含む売上を伸ばしていく成長戦略には
効率的かつ集中的な投資が不可欠

→ 90億円以上(3ヶ年)を目指す

設備投資だけでなく、国内外問わずM&A等
アライアンスも含め積極的な投資を行っていく



(金額単位:億円)

	2016年 11月期 2年目実績	2017年 11月期 3年目実績	2018年 11月期 4年目予想	2019年 11月期 5年目(当初目標)	2024年 11月期 10年目(目標)
売上高	235	265	272	270	350以上
化成品事業	103	110	115	123	—
電子材料事業	77	93	95	82	—
機能化学品事業	54	61	61	65	—
海外売上高比率 (%)	16	17	—	20	—
営業利益率 (%)	10	12	12	8	10%以上
(営業利益)	24	32	33	22	(35以上)